

大雪山国立公園東大雪地域登山関係者による 情報交換会議事録

日時：平成25年6月20日(木)

場所：北海道十勝総合振興局地下会議室

参加団体：12団体・15名(別紙の名簿を参照)

1. 開会：田邊自然保護官(以下「田邊R」)

2. 挨拶：田邊R

- ・情報交換会の開催目的を説明
- ・当日資料の確認
- ・情報交換会の議事内容を後日環境省や大連協のHPで公開したい旨の説明

3. 情報交換

◆各団体からの活動報告(資料1～7参照)

各機関より自己紹介、及び今年度の登山道整備・活動予定箇所等の報告が行われた。(欠席した自治体・団体の計画については司会(田邊R)より代読。

資料1～7の記載事項に付け加え、下記のことが説明された。

十勝西部森林管理署東大雪支署：本日、ヌブントムラウシ林道にて地滑りを発見した。少なくとも来年の秋頃まで開通はできない状態。この件の情報は色々な媒体を通し、適宜発信していく予定。

十勝総合振興局：携帯トイレブースの設置は委託しており、もうすぐ開ける予定。短縮登山口のソーラー式バイオトイレは6月19日に開設した。高山植物保護キャンペーンを6月29日に実施予定。

新得町：荷揚げ登山の日程については、情報交換会後に開催する新得地区登山道等維持管理連絡協議会幹事会にて決める予定。(※その後、7月10日に決定)

上士幌町：2013年はニペソツ山標高年なので各メディアを通して宣伝中(添付資料②を参照)。

5月1日に開館した、ひがし大雪自然館は町と環境省との施設を合築した前例のない施設となっており、当該施設でニペソツ山登山証明書を発行するなど有効活用していく。

新得山岳会：様々な業務を受け負い、環境整備に貢献していきたい。

NPO ひがし大雪自然ガイドセンター：ニペソツ山の標高1400m付近で洗掘が進んでいる箇所があるので笹刈りとともに修復をする予定。石狩岳の御殿跡からシュナイダーコースにかけて川が氾濫することがあるため登山道をわかりやすくしたい。ニペソツ山にあった国土地理院の三角点は昨年10月に撤去されていることを情報共有しておきたい。

日本山岳会北海道支部：9月の集会などでトイレの利用マナーに関するチラシを配る予定。

大雪山国立公園研究者ネットワーク：研究成果を掲載したアカデミックパンフレットの英語版作

成を進めており、将来的には販売する予定。

山のトイレを考える会：トイレマップは白黒版の在庫減少に伴い改訂、A3三折り程度のサイズにする予定。携帯トイレ回収ボックスの鍵番号やトイレの位置など、マップに誤りがあれば、今月中に連絡をしてほしい。

また、添付資料①の通り、2月27日にNPO法人山のECHO主催で行われた“「山はみんなの宝」憲章、及び大雪山入山者ルールに関する意見交換会”の結果を報告する。そもそも2010年の環境省内部の事業仕分けで一度は「山小屋トイレ整備補助事業」に『廃止』の判定が下されたことをきっかけに、山の恩恵を受ける全ての人が自身の行動をしっかりと考えるべきという考え方から、「山はみんなの宝」憲章を作成するため地域の声を聞いて回っている。

その中で大雪山関係者からは資料のような意見が出されていたので共有したい。

北海道山岳整備：昨年度はトムラウシ山・ニペソツ山で指導を行った。今年の活動場所は未定だが、引き続き近自然工法による登山道整備に貢献していきたい。

◆意見交換

新得山岳会：ヌプントムラウシ林道はオートバイでも行けないのか。

十勝西部森林管理署東大雪支署：先ほど入手した情報だが、大規模な地滑りが発生しており簡易な補修では間に合わないため本年度中の復旧は無理。危険なので通行は禁止したいと考えており、今後プレスリリースも行う予定。

北海道山岳整備：昨年にクチャンベツ登山口から沼ノ原のササ刈りを行ったが、終点から200mまでは行けた。使おうと思えば使えるのではないか。現在は沼ノ原までシュナイダーコースしかなく、エスケープできない。

上川自然保護官事務所野川R：クチャンベツは来年度から開通予定。

新得山岳会：ウペペサンケ山の糠平コースと東西コースはどうなっているのか。

十勝西部森林管理署東大雪支署：東西コースは引き続き通行できない。ただ、糠平コースについては作業が全て終わらないとOKとは言えないが、もうすぐ方針を決められる。

上士幌町：壊れている箇所の状態が悪く、時間と費用がかかる。

新得山岳会：携帯トイレの回収箱がトムラウシ山短縮路登山口に設置されているが、トムラウシ温泉登山口には設置されていない(昔は設置されていた)。短縮路登山口の利用者は日帰り登山の場合が多く、温泉登山口は縦走者が温泉を求めて利用したいはず。携帯トイレを捨てられる可能性の高い温泉側に設置したらどうか。

十勝総合振興局：温泉側のトイレに大量のプラスチック等のゴミが捨てられていたことはある。

新得山岳会：一昨年、南沼野営地の携帯トイレブースに14個の使用済み携帯トイレが捨てられていたことがある(誰かが未使用の携帯トイレを好意で置いていった模様)。ただ、携帯トイ

レが普及しておらず携帯トイレブースもない頃は、その辺に捨ててあった。今後、振興局が携帯トイレの無料配布をする予定はあるのか。

十勝総合振興局：当時は普及啓発のために無料配布を行っており、認知されて今後は登山者が自分で買うべきと考えるのもう行わない。

大雪山国立公園研究者ネットワーク：無料配布はH15～16年度の2年間程度行われたと記憶する。

野川R：利尻島では6年間行われた。携帯トイレを求めやすくすることも必要。ウトロではセブンイレブンでも売っていたが、釣り人がよく買っていた。

十勝総合振興局：層雲峡だと長時間営業しているコンビニもあるが、そのような便利な場所で販売してもらうことも重要。

十勝総合振興局：ヒサゴ沼避難小屋の管理を行っているため、登山道の積雪状況について問い合わせがくる。しかし、その時々状況を知らないため、北海道の山を登るために必要な装備や心得といった説明しか出来ていない。詳しく知りたい人のため、どこか情報を持っている団体があれば紹介したい。

野川R：ヒサゴ沼は現在の登山道の状況等から、行きにくい場所にあり、登山関係者でも頻繁に情報が取れないのではないかと。6月7日に開催された表大雪山地域登山関係者による情報交換会では、関係者の情報集約をフェイスブック上で行えば良いのではという声があつて議論した。

十勝総合振興局：一目で通行止めといった登山道の状況がわかるマップがあると便利ではないか。

NPO ひがし大雪自然ガイドセンター：マップはいらないと思う。辿り着けない人が登山するべきではない。

北海道山岳整備：昔、表大雪地域の自然センターで、地域の登山道など様々な情報を毎週更新し、300円で手書きの情報誌を販売していた。そういうものがあると便利だが、今はインターネットがあるので、これを活用すればよい。

野川R：現状でも、大雪山国立公園連絡協議会HPのバナーから各ブログ等を見てもらえば、地域毎にはなってしまうが、最近の情報を得ることはできる。

北海道山岳整備：一般の人は、どこをみればよいかわからない。ガイドさんは仕事上たくさんの情報を持っていると思う。

十勝総合振興局：そういった情報を集約できる場所があるといい。

田邊R：インターネットで大雪山国立公園と検索すると、上位にくることから、大雪山国立公園連絡協議会がそういったものの場となると理想。また、東大雪地域になってしまうが、ひがし大雪自然館では、最新の登山道情報を掲示している。

NPO ひがし大雪自然ガイドセンター：マップの登山道に×印を入れるだけならすぐ出来る。

十勝総合振興局：通行禁止や危険な場所を知らない人が行ってしまうと特に縦走する場合出口側で通れないと大変なので、そういった意味でも必要だと思う。

野川 R：頻繁に情報更新できるかが問題で、関係者全員に協力して頂く必要があると思うが、前向きに検討したい。

山のトイレを考える会：善意で行っている情報提供側の責任にならないようにする必要がある。

新得山岳会：ヒサゴ沼の避難小屋の、過去に道が設置した非常食の賞味期限が1年以上過ぎている。また、ゴミが捨てられていることも多く、好意なのかヘルメットやブルーシートなどを置いていく人もおり回収に手間がかかる。

山のトイレを考える会：何か置いてあると、他の人も置いていってしまう。

田邊 R：カンパン等を新しく置く予定はあるのか。

十勝総合振興局：予定はない。

野川 R：全員で清掃登山を行う必要がある。

田邊 R：先程の山の ECHO 意見交換会の結果報告を受け、各団体で発行している啓発用パンフレットの表記がバラバラになっているという指摘について話したい。今回、大雪山国立公園連絡協議会、新得町および上士幌町にて作成している登山ガイドを配布するので、皆様にも一度目を通して頂きたい。大雪山国立公園連絡協議会の「登山者のみなさまへ」というパンフレットはどれくらい活用されているか伺いたい。

十勝西部森林管理署東大雪支署：地図には登山道までの主要林道しか掲載されておらず、迂回林道を説明できない。問い合わせがあっても、当該パンフレットを見て問合せをする人には林道の分岐点を説明することができない。また、掲載されている林道の名称が正確ではなかったり、許可されていない違法な温泉が載っていたりして、積極的に活用できない状況。

上士幌町：上士幌町発行のパンフレットにも同じ温泉を載せてしまっている。次に更新する時には削除したい。

NPO ひがし大雪自然ガイドセンター：この地図は全体の位置関係の把握に便利だと思う。現地ではなく、これから山登りに行こうと考えている出発地(本州など)で見してほしい。しかし、気象条件や登山者への注意事項が記載された裏面を見る人は少ないのではないのか。また、裏面に避難小屋についての記述(老朽化や利用マナー等)がない。

日本山岳会北海道支部：以前、ツアー会社らによる避難小屋の場所取り問題もあったことから、避難小屋の記述は必要だと思う。

大雪山国立公園研究者ネットワーク：この地図は、以前に大雪山国立公園連絡協議会で策定した「大雪山国立公園登山の心得」を受け、それを反映させている。また、大沼の野営指定地は水没の危険性も高く、トイレもないことからテントをはるのに適していない状況だと思う。

北海道山岳整備：昨年利用したと思われるのは学生1組だけだった。

田邊 R：今後、各団体で啓発用パンフレットを作成・改訂する際には、是非この情報交換会という場を利用して議論して頂きたい。大雪山国立公園連絡協議会のパンフレットを改訂する時には必ず相談させて頂く。今後、東大雪地域のみでなく表大雪地域とも連携しながら情報交

換会のネットワークを活用していきたい。

十勝総合振興局：携帯電話の利用可能場所についても聞かれるが。

新得山岳会：警察のHPに載っている。

上士幌町：上士幌町発行のパンフレットにも記載。

NPO ひがし大雪自然ガイドセンター等：ドコモは独自に調査を行っている。機種によっても電波状況は異なるため、全ての情報をまとめるのは難しい。

北海道山岳整備：昨年、沼ノ原から石狩岳の登山道が分かるようササ・ハイマツ刈りを行ったが、長期間放置してしまったため道ではない状態だった。特に根曲り廊下のヤブ化はひどく、関係者であっても迷ってしまうほど。廃道にするならよいが、登山道として残すのであれば定期的に予算をつけて整備を行ってほしい。ハイマツは年に40cm伸びると言われており、3～5年ごとに刈るべきではないか。

田邊R：その道は環境省が定めた管理水準でAランクに指定されている。

野川R：ニーズの問題もある。

北海道山岳整備：ニーズでいえば低いかもしれないが、地域としてその登山道をどう捉えるかが重要である。石狩岳～根曲り廊下は最後にいつ整備を行ったのか。

新得山岳会：10数年前くらい昔だが、上の方は誰もやっていないのではないか。

4. その他

野川R：大雪山国立公園連絡協議会の業務として本年度も登山道技術講習会を行う予定である。希望する時期や場所はないか。

NPO ひがし大雪自然ガイドセンター：秋くらいまでにやって欲しいが、場所の選定が難しい。

田邊R：年2回を想定しており、東と表で1回ずつ行うよう調整するので、また事前に相談させて欲しい。

十勝総合振興局：来年の2月23日に遭難防止の講習会を行う予定(地域政策部が担当)にしているので事前に情報提供をしておく。

5. 閉会